

第19回研究セミナー・第8回会員交流会報告

去る7月29日(土)、午後1時30分から4時まで、研究セミナーと会員交流会を同時開催しました。会場は「かでの2・7」920会議室。ハイブリット開催で、会場参加者17名、オンライン参加者2名、このうち2名が非会員でメルマガ読者でした。

話題提供は、第四紀の古環境に関する研究、風力発電立地にとまなう地形・地質特性の重要性、人間活動による地球温暖化や測地学的問題、横須賀高校の修学旅行案内の下見、と多彩な話題で、終了時間ギリギリまで活発な質疑がかわされ、盛会裡に終了しました。

終了後、札幌駅近くに会場を移し、懇親会が行われ13名が参加しました。この催しもまた、コロナ禍を忘れさせる盛会となりました。

話題提供は、以下の4件(敬称略)でした。

嵯峨山積：「塩分指数と古石狩湖」

石狩平野部を含むボーリング試料を用いた珪藻化石群集研究をもとに、塩分指数の指標を提唱し、その値と塩分濃度や電気伝導度との相関性を検討し、古環境変遷の評価について紹介されました。

石崎俊一：「風力発電計画地域の地形・地質特性」

国内の自然エネルギーを俯瞰した上で、風力発電事業の実態に焦点を当て、つい先頃、事業の中止が話題となった小樽余市地域の風力発電計画の実態が紹介されました。本事業では、地形・地質的特性がほとんど考慮されておらず、地すべりによる土砂災害が危惧され、地域住民の反対運動の重要な要素になったことが紹介されました。

宮下純夫：「最近の地球科学の話題について」

地球温暖化、巨大ビルの密集する都市部の沈降を原因とするアイソスタシーの変化予測、月のウラ側に巨大な花こう岩体が存在する可能性などが紹介されました。

関根達夫：「横須賀高校修学旅行の下見報告」

今秋に予定されている案内先である、厚真町周辺の地震災害現場の現地下見の報告がありました。

なお、次回の研究セミナー・会員交流会は、11月11日(土)(於 エルプラザ)を予定しています。

以上

(岡村聡・司会担当)